

お問い合わせ先

株式会社 三五 総合企画部 経営企画室

〒456-0023

愛知県名古屋市熱田区六野一丁目3番1号

TEL:052-882-3593 FAX:052-872-6890

<https://sango.jp>



Pure AIR & More.



SANGO Group Report
2026

ご挨拶



未来の地球、 働く仲間たちのために立ち止まらず、 変革へ挑戦し続けます。

三五グループ(以降 当社)は、創業から98年、設立から76年にわたり、時代のニーズに合わせた三五製品の創出を通じて社会課題の解決に取り組み、ステークホルダーの皆様と共に歩んでまいりました。

私たちは2025年10月、「中期経営計画2030」を策定しました。長期VISIONの実現に向け、「環境の三五」として進化し続けること、全員が活躍する企業づくり、競争力強化と新たな価値創造への挑戦を柱に、次の時代に向けた変革を進めてまいります。

自動車業界を取り巻く環境は大きく変化しており、企業には持続的成長と社会課題への対応が求められています。私たちはこの変化を成長の機会と捉え、新たな価値創造に挑戦してまいります。

2026年は、私たちが未来に向けて進化を始める年です。技術力・開発力を更に磨き、競争力強化と持続可能な社会の実現に向けた取り組みを加速してまいります。

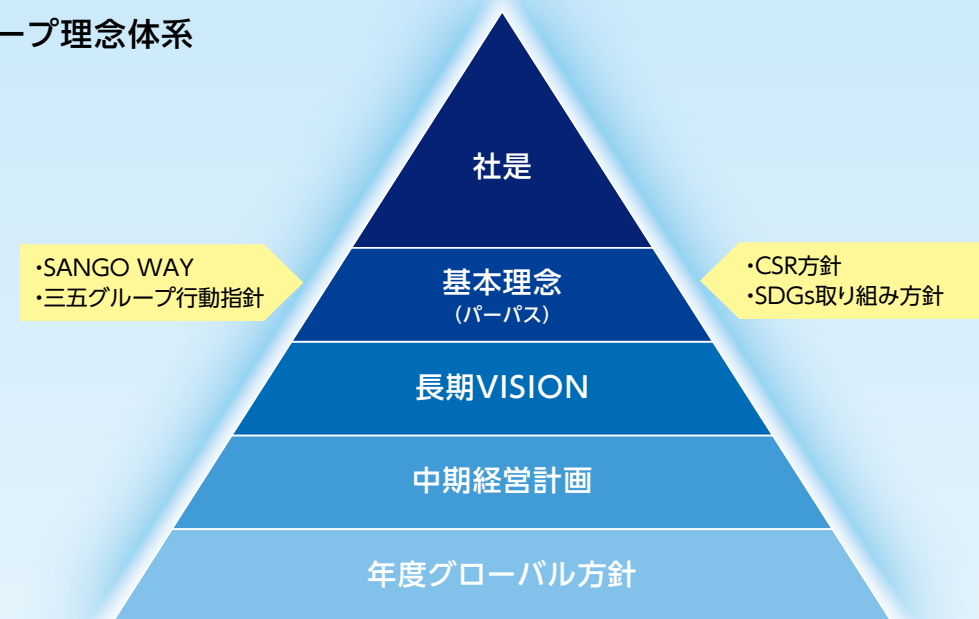
本グループレポートは、当社が目指す方向性や課題への姿勢をご理解いただくことを発刊の目的とし、当社のCSRに対する考え方や2025年度の活動実績をご紹介します。本レポートが、皆様と当社との信頼関係を深める一助となれば幸いです。

代表取締役社長 **水野 昭智**

CONTENTS

ご挨拶	01	〈ESG情報〉	
三五グループ理念体系	02	環境	09
〈特集〉		社会	13
中期経営計画2030について	03	ガバナンス	19
事業本部の取り組み	05	〈会社情報〉	
〈未来トーク〉		製品紹介	22
“未来創生センター”をリアルに語る	07	会社概要	23
		数字で見る三五	25

三五グループ理念体系



社是 三五グループの繁栄 私達の地球 私達の会社 そして私達の繁栄につとめましょう	SANGO WAY (行動原則) 三五従業員として自身の行動が、 正しいかどうか判断するものさし I.公正と誠実な行動 III.チャレンジ精神 II.人材育成と強い団結力 IV.革新と独創性 (teamwork) V.現地現物
基本理念 (パーパス) 持続可能な社会の実現のため、「環境の三五」 「人を大切にする企業グループ」を目指します。 ●チャレンジ精神と行動力、伝統を継承した、 世界で活躍する「ひとづくり」 ●技術を革新し、独創的な製品をつくり出す 世界最高の「ものづくり」 ●地域社会と一体となった、 個人と地球が調和する「環境づくり」	三五グループ行動指針 三五従業員が規範・羅針盤とすべき 基本的な指針および具体的な留意点 1.人権尊重 5.情報の適正管理と公開の透明性、説明責任 2.法律・ルールの厳守 6.公平・公正な関係 3.安全衛生 7.環境保護と社会貢献活動 4.会社資産の保護 8.各国の文化・慣習を尊重した運営
長期VISION SANGOグループ VISION 2040 Pure AIR & More. ●ものづくり/コトづくりを通して、安全・安心で 持続可能な社会に貢献する ●働く仲間が自己の成長を通じて、 働きがい・幸せを感じる環境を提供する	CSR方針 社会に貢献し、信頼される、 持続的に成長する企業へ 
中期経営計画 2030 2030年に向けた経営方針 ※詳しくは P03-06 参照	SDGs取り組み方針 私たちは、三五基本理念に基づき地球環境に 配慮し、地域社会との調和を目指す 企業として自らの成長を通じて、 持続可能な社会の実現に貢献します 

変わらぬ想いを礎に、未来への変革へ。

当社は、中期経営計画2025から2030、更にその先のVISION2040へとつながる成長の道筋を明確にし、その実現に向けた取り組みを進めています。

中期経営計画2030は、2030年にありたい三五グループの姿を具体化した5ヵ年計画です。これまで培ってきた真摯な姿勢を礎に、環境・人・競争力の進化を図り、未来への挑戦と持続的な成長を加速していきます。

中期経営計画2030 全体像

2030年に目指したい三五の姿

Pure AIR & More.

VISION2040実現に向け、
三五も私たちも変革していきます。
未来の地球、働く仲間たちのために。

経営目標

財務

グループ連結売上高：4,000億円^{※2}
グループ連結利益率：6.0%^{※2}

※2 受給品除く

非財務

- E** CO₂(スコープ1,2)排出量：▲50%削減
廃棄物排出量：▲35%削減
- S** 従業員エンゲージメント(eNPS)：-65達成
健康経営：ホワイト500取得
- G** コンプライアンス意識：20%向上
サイバーセキュリティ重大インシデント：0件

事業別戦略

排気系事業

車両OEMより頼られる
No.1排気系サプライヤーとなる

ボディ・シャシー事業

他社を凌駕する技術開発を通じて
新規市場を開拓し、
グループ収益の柱となる

電池関連事業

電池関連製品サプライヤーとしての
ポジション(地位)を確立する

精鋼事業

プロダクトミックスをパーツ事業
(高付加価値製品)主体に転換する

機能別戦略

環境戦略

自然共生・生物多様性・地球にやさしい
エネルギー活用など、持続可能な
社会に貢献する「環境の三五」を目指す

生産戦略

全体最適を目指すマルチな生産戦略で、
持続可能なサプライチェーンを構築

全員活躍戦略

社員一人ひとりがイキイキと活躍し、
笑顔あふれる元氣な会社

将来ものづくり戦略

快適な作業環境と多様な働き方で、
圧倒的に生産性の高いものづくり

財務投資戦略

稼ぐ力の強化＝持続的な収益性・
資本効率の向上、
営業利益率6%、SANGO-ROIC8%^{※3}

未来事業創生戦略

新製品分野で新事業を立ち上げ・収益確保、
地域/社会への貢献を通じた企業価値向上・
付加価値創出

※3 SANGO-ROIC：連結NOPAT(税引後営業利益) /
(有形固定資産+棚卸資産)

中期経営計画2025の振り返り

中期経営計画2025目標・実績 (受給品除く)

	2019年実績	中計2025目標 (2019年策定時)	中計2025実績 ^{※1}
連結売上高	2,242 億円	2,247 億円	3,640 億円
営業利益率	-0.7 %	5.0 %	7.4 %

連結売上高、営業利益率ともに目標を上回る業績を達成

※1 2026年7月時点、三五グループ全体の実績値

成果

➡ 事業ポートフォリオの変革を推進	▶ 排気系事業の収益向上や大型ボディ部品の売上拡大 ▶ 国内営業利益率の大幅向上、筋肉質な体質へ転換
➡ 新製品の創出	▶ 電池パック、FP35(建築用配管)など、 新製品創出に向けたチャレンジ
➡ 経営基盤強化	▶ 新人事制度刷新やコンプライアンス活動強化などにより 経営基盤強化

課題

➡ 地域軸を踏まえた事業戦略構築	▶ 各事業で地域ごとの戦略を明確化 ▶ 拠点のない地域を含めた技術援助/アライアンス強化
➡ 新事業創出に向けた更なる加速	▶ VISION2040新事業売上10%達成に向けた 具体的方策の立案
➡ 継続した経営基盤強化	▶ 環境の三五として企業価値を向上させる 機能戦略の更なる充実

ありたい将来像

Pure AIR & More.

環境のSANGOとして今後も空気をキレイにし、
持続可能な社会に向けて
地域社会、お客様、社員のために
「環境のSANGO」へ
もっと もっと。

● 取り組みの詳細は資料を参照ください

SANGOグループVISION2040



中期経営計画2030



戦略をかたちにし、未来へつなぐ4つの事業

中期経営計画2030では、これまで培ってきた強みを進化させながら、2030年、そしてその先の未来につながる基盤づくりのためのロードマップを描きました。その推進力となるのが、各事業本部の取り組みです。事業環境が大きく変化する中、排気系、電池関連、ボディ・シャシー、精鋼の4事業は、それぞれの強みを軸に成長に向けた挑戦を始めています。

本特集では、各事業の戦略の概要とともに、事業本部長が語る、未来に向けた挑戦や、そこに込めた想いをご紹介します。

排気系事業

2030年のありたい姿 車両OEMより頼られるNo.1排気系サプライヤーとなる

重点戦略

開発提案力を生かした拡販

- ▶メーカーニーズに沿った開発力に加え、2035年ゼロエミッションを目指した環境技術を強化し、拡販

価格競争力確保

- ▶ものづくりの技術進化、OEMのコスト戦略を踏まえた生産体制の構築
- ▶生産変更に強い汎用ライン導入などで競争力を強化

ロードマップ



過去数年間は急速なBEV化が予想されていましたが、現在は多岐にわたる理由でそのスピードが鈍化しています。このような環境下で排気系事業としては2つの技術開発を進めています。1つ目は、CN(カーボンニュートラル)に向けた新燃料(バイオ燃料、E-FUEL、水素)に対応した開発です。2つ目は、ゼロエミッションに対応した三五ONLY ONEでの開発です。これらは電動化(HEV、PHEV)が加速しても求められる重要な技術ですので、中期経営計画2030での目標達成のために実現してまいります。

事業本部長 香田 康彦



電池関連事業

2030年のありたい姿 電池関連製品サプライヤーとしてのポジション(地位)を確立する

重点戦略

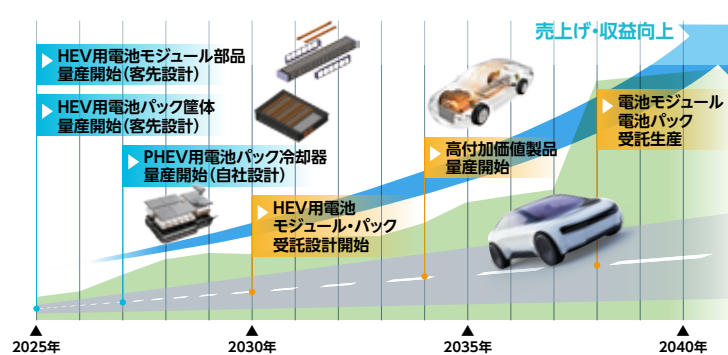
電池関連製品仕入先としての基盤固め

- ▶性能、耐久性の開発、設計から生産までスルーで担う技術習得
- ▶電池関連製品特有の厳格な要求品質に対応する塗装/検査技術、品質保証体制確立(標準化)
- ▶構造、製法両面での特許網形成による競争力確保

高付加価値な電池関連製品の開発

- ▶既存ビジネス実績を基にした新規顧客獲得に向けた開発強化
- ▶グローバルでの開発体制強化・エンジニア育成
- ▶熱マネジメント、ステンレス特性、接合技術を活かした省エネ、カーボンニュートラル貢献製品開発推進

ロードマップ



中期経営計画2030達成に向けて、三五が保有している熱マネジメント、耐久性能、加工、接合技術を活かし、ステンレスを積極的に採用した製品開発と課題解決の提案を行い、受注を拡大していきます。2025年度は、関係者の皆様のご協力もあり、これらの技術を活かして冷却機能付き電池パック部品を生産開始しました。電池はBEVだけではなくHEV、PHEVなど多くの電動車に搭載されています。2040年に向けて更なる技術開発を達成し、電池関連事業が三五の次の柱となるように進めてまいります。

事業本部長 香田 康彦



ボディ・シャシー事業

2030年のありたい姿 他社を凌駕する技術開発を通じて新規市場を開拓し、グループ収益の柱となる

重点戦略

超ハイテン加工技術開発取得による市場シェアの奪取

シャシー関連製品市場への参入

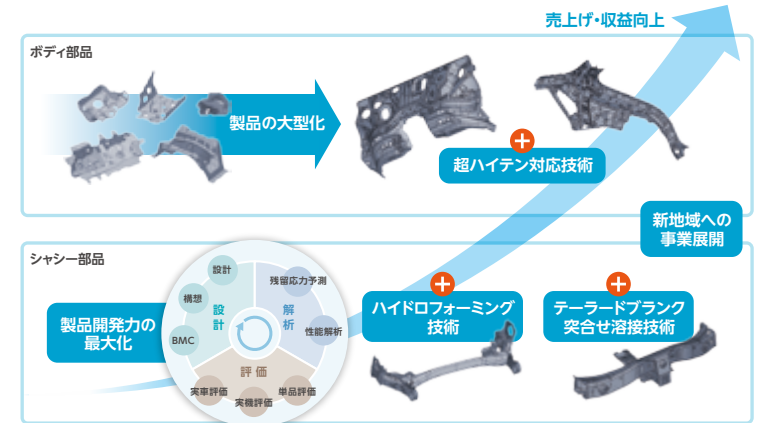
- ▶ハイドロフォーミング製品の訴求拡大
- ▶既得技術(テラードブランク、突合せ溶接)の展開による新たな地域への参入

協業/アライアンスを活用した新市場進出

- ▶車両拡大を見据えた拠点進出

既存顧客のドアインパクトビームグローバルシェアの更なる拡大

ロードマップ



ボディ・シャシー事業本部は、超高張力鋼板(超ハイテン)の成形・接合技術、テラードブランクや厚板突き合わせ溶接技術など、これまで培ってきた技術を更に磨き上げ、軽量で高強度、かつ安全・環境面で優れた部品を提供し、顧客や社会の課題解決に貢献していきます。加えて、日々変化する自動車産業の中、コスト競争力のあるつくり方の確立と顧客ニーズを捉えた製品開発を推進することで既存市場の基盤を強化し、グローバルでのシェアの拡大を目指します。これらの取り組みにより、ボディ・シャシー事業を三五グループの重要な収益の柱へと成長させていきます。

事業本部長 尾形 修



精鋼事業

2030年のありたい姿 プロダクトミックスをパーツ事業(高付加価値製品)主体に転換する

重点戦略

鉄鋼二次加工

市場変化に合わせた体質改善

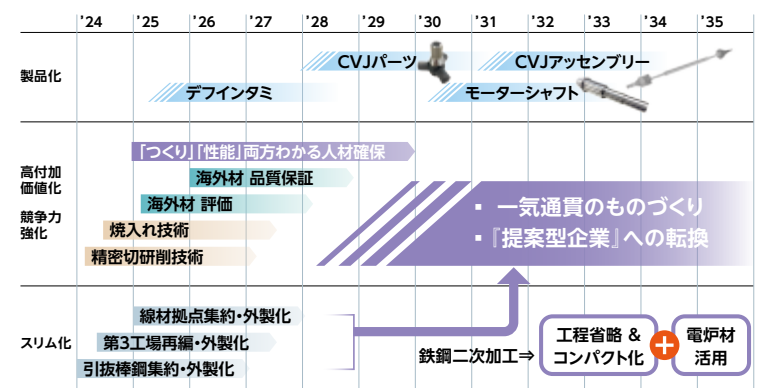
- 造管/鋼管
- ▶製造工程全体での原価低減と競争力確保
- ▶造管から引抜までの一貫生産化
- 棒鋼/線材
- ▶社内工場の再編成、協業/アライアンス検討による最適化

パーツ

駆動系部品で完品ビジネスを目指す

- ▶等速ジョイントアセンブリーメーカーを目指す
- ▶他社アライアンスを含むパーツ事業開拓

ロードマップ



私たちはこれまで、鉄鋼二次加工を通じて品質向上、コスト削減などさまざまな価値を提供してまいりました。今、その基盤を活かしながら、更に一歩先にある「パーツ事業」へとプロダクトミックスの転換を進めています。この挑戦は、単なる事業領域の拡大ではなく、お客様の製品価値そのものにより深くかわり、最終機能や性能に直結する領域で貢献していくという大きな進化を意味しています。「素材から製品へ」。これからもお客様やパートナーの皆様と共に成長しながら、社会に求められる存在であり続けることを目指してまいります。

事業本部長 松井 知幸



未来トーク

FUTURE TALK

新たに立ち上がった
“未来創生センター”とは？
実際に配属されたメンバーが
STATION Aiに集まり、
その日常や思いを
リアルに語りました。

“未来創生センター”を リアルに語る



Q1 未来創生センターへの異動を 聞いた時どう感じましたか？

成瀬 会社が更に先に進むために大きな変革をしていく期待感を感じ、面白そうだなと思いました。

唐澤 会社の進み方を決める一歩だと思うので、その大きな使命を担えるのかなという不安は感じました。でも、アイデアがあってもアクションできないことが過去にあり、今回は組織みんなでやろうという環境が生まれ、私も期待していますし、大いにがんばりたいと思っています。

井上 新規事業を仕事としてできる体制に、「やっと来た」みたいな楽しみを感じましたね。

杉浦 ずっと未来創生センターの話は聞いていて、すごい新しいことが始まるんだってワクワクしていたので、まさか自分がそこに行けるとはという印象でした。前の部署でも、新規開拓に取り組んでいましたし、この部署は新しいことに挑戦して良いという環境なので楽しみです。

Q2 今取り組んでいて楽しいことや 今後楽しみなことはなんですか？

井上 これまでは、三五が築いてきた実績に自分がかかわっていくという仕事の仕方でしたが、今はもしかしたらゼロから自分の考えたものが世に出るかもしれないと考えると楽しみしかありません。

成瀬 今、“つながる”ことをとても意識しています。気になる企業にはすぐにコンタクトして、その週のうちに打ち合わせがあるとか。とにかくそのスピードの速さが楽しいですね。

杉浦 今までの三五とは全く違う分野にもどんどん挑戦していけるので、社外の人とも「こういうことをやりたい」の前のレベルで、「何か一緒にできないかな」と考えて動くのがすごく楽しいです。

唐澤 新しい技術を学んだりつくったりするのが好きなので、自分の中で、今までの境界線をちょっと超えている新鮮さを感じています。

恒川 未来創生センターのミッションは2つあります。1つは現在の三五を起点に何か新しいことができない

かというもの。もう1つは、三五が取り組む意義からアイデアを出し、0から1を生み出すことです。みんなの意識の高さを、すでに強く感じています。

Q3 新しい取り組みに対して どんな意識を持っていますか？

唐澤 今までは、三五っぽいものを探してしまうところがありました。一旦それを取っ払って広く考えてみよう意識してやっています。

杉浦 「これ無理でしょ」と言ってやらないのではなく、「いけるかもしれない」という気持ちで進めると、もしかしたらできそうな案が実際にいくつか出てきていて、その意識は大事にしています。

井上 考えを掘り下げる時に“なぜ”を繰り返しています。“五なぜ(なぜなぜ分析)”と言って、5回以上繰り返すと本当の原因が見えてくるので、それを潰すアイデアを考えるように心がけています。

成瀬 いろんなアイデアを否定しないことは意識しています。まずは肯定から入って、「いいじゃん、いいじゃん」しか言わないですね。

恒川 今までやってきたことを続けることも大事ですが、そこに新しい視点や考え方を加えることで、できることの幅が広がるように意識してもらいたいです。

Q4 将来的にどんな仕事を 形にしていきたいですか？

成瀬 これまで技術開発で携わってきたこともあり、私の中では温暖化対策は1つの軸ですね。

唐澤 私もずっとかかわってきているCO₂の回収で、なんとか良い企画にしたいと思っています。あとは個人的に面白いなと思っているものを、1つやってみたいと考えています。



新事業創生部 先端技術G
成瀬 良英

入社25年目。料理・読書、ガーデニングなど、アナログ寄りの広い分野に興味を持ち趣味にしている。



未来創生センター
センター長(機能長)
恒川 弘道

入社14年目。仕事も趣味も充実の日々。バスケット、ゴルフに加え、最近は家族での鉄道旅行が新たな趣味に。



新事業創生部 企画G
杉浦 さくら

入社5年目。散歩や海外旅行、ピアノ、イラストが趣味。ヨーロッパ一周が夢です。



新事業創生部 開発G
井上 佳

入社17年目。車(乗るのもいじるのも)、写真撮影、プラモデルが趣味で、自分が考えているものを形にすることに興味がある。



新事業創生部 開発G
唐澤 美琴

入社8年目。趣味は読書、ゲーム、手芸など。最近は音のゲームと刺繍にまっています。

井上 エネルギーの分野で人の役に立つものを生み出せられたら一番良いですね。

杉浦 三五の持っているものを整理していく中で、ものづくりだけじゃなくて、サービスなどもつくれるんじゃないか?と感じていて、今はアイデアを考えています。

恒川 メインは、モビリティとエネルギーとインフラです。ただ、やりたいことが形になると本人もうれしいし、それが事業になると会社もうれしいので、それぞれやりたいテーマにも取り組んでみようと言っています。

Q5 未来の三五は どんな企業であってほしい？

唐澤 「三五が〇〇もやってるの?」みたいな意外性のある事業を手掛ける企業になったらうれしいですね。

杉浦 他の部署の人たちにも率先して「やってみたい」と言ってもらえるような事業をつくって、みんながもっとイキイキと働けるような環境になったら良いなど。

成瀬 三五の技術は、見えないところにある縁の下の力持ちです。これからも、人が生きていくための心地よい環境をつくっていく製品を作る会社でありたいです。

井上 私は2つあって、車が大好きなので、既存事業をそのまま絶対にやり続けてほしいというのが1つ。もう1つは、会社として“環境の三五”や“Pure AIR & More.”を掲げているので、これからますます求められる循環型社会に三五が貢献できたら良いなと思っています。

恒川 三五は2028年に創業100周年を迎えますが、それはあくまで通過点です。更に100年200年先を見据え、子供や孫世代が、三五で働きたいと言ってくれるような会社にしていきたいです。そのために未来創生センターはこれまでの三五を受け継ぎつつ、新しい価値を生み出せるように取り組んでいきます。

未来創生センター(新事業創生部)は、次の100年も見据え、三五の新たな未来を築く事業創出に挑戦するために設立されました。三五の新たな価値を創り出すべく、若手からベテランまでさまざまな人材が集まっています。

設立の目的 ・既存事業に次ぐ新たな柱となる事業の創出 ・地域/社会に貢献し、中長期で「企業価値の更なる向上」を目指す

三五グループはCSR方針に「社会に貢献し、信頼される、持続的に成長する企業へ」を掲げています。E(環境)の枠組みでは、「環境チャレンジ」の達成と「人に優しい職場環境」づくりを目指しています。生物多様性の保全・自然共生活動・地球にやさしいエネルギー活用などの取り組みで持続可能な社会の発展に貢献していきます。

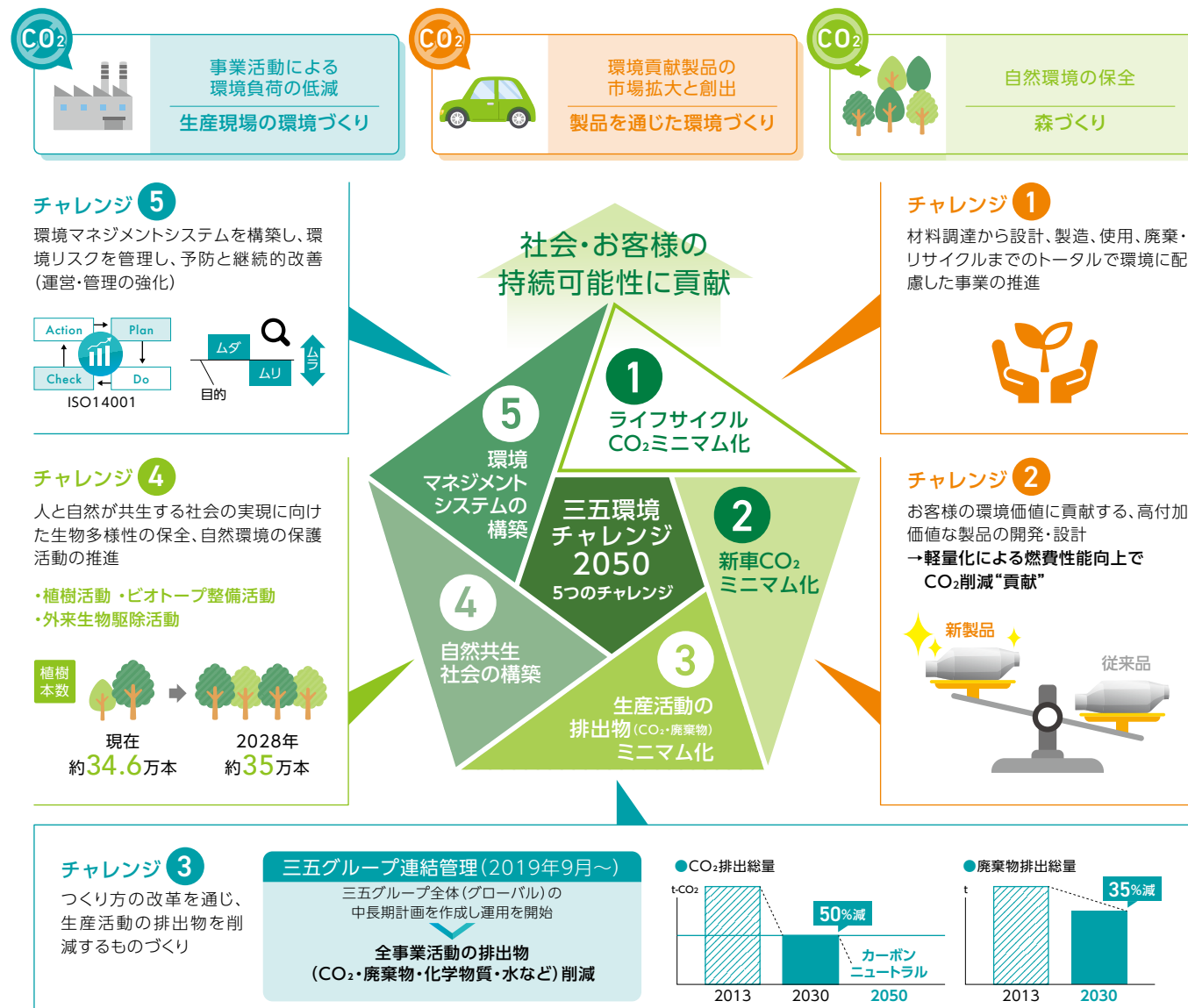
環境への取り組み

環境長期ビジョン"三五環境チャレンジ2050"

当社はこれまで「三五グループ環境チャレンジ2050」に沿って、2050年のカーボンニュートラル達成を見据え、主に省エネルギーなどのCO₂削減に注力してきました。2025年度に策定した中期経営計画2030では、サーキュラーエコノミー(CE)、カーボンニュートラル(CN)、ネイチャーポジティブ(NP)の3分野を連携させる環境戦略を掲げ、2030年に向けた具体的な取り組みを進めることを発表しました。自然共生・生物多様性・地球にやさしいエネルギー活用など、持続可能な社会に貢献する「環境の三五」を目指していきます。

●3分野連携の環境戦略で目指す「環境の三五」

当社の主要原材料である鉄鉱石の継続的な採掘は、地域の森林破壊や生物多様性の損失を招くおそれがあります。企業活動は豊かな自然があってこそ成り立つとの認識から、事業判断や施策検討の際には、CE・CN・NPの観点で全体として負の影響を生じさせないよう配慮します。



三五グループ「第2次環境取組みプラン」2025年度実績(抜粋)

●CO₂排出量と廃棄物排出量

2025年度 目標	2025年度 実績	結果
◆CO ₂ (スコープ1,2*)排出量 【三五+国内事業体*2】 50,065 t-CO ₂ (2013年度比 31%削減)	46,494 t-CO ₂	目標達成率 108%
◆廃棄物排出量 【三五グループ全体(グローバル)】 6,080 t (2013年度比 13%削減)	7,522 t	目標達成率 80%

※1 世界的基準GHGプロトコル、スコープ1(事業者自らによる温室効果ガスの直接排出)、スコープ2(他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出)
※2 海外事業体のCO₂(スコープ1,2)排出量については、各国毎にBM目標を定めて推進中

●主な活動と成果

分類	三五環境チャレンジ2050 5つのチャレンジ	取り組み項目	2025年度 実績
環境貢献製品の市場拡大と創出	1. ライフサイクルCO ₂ ミニマム化にチャレンジ	材料調達から設計、製造、使用、廃棄・リサイクルまでのトータルで環境に配慮した事業の推進	仕入先・物流過程における環境負荷の見える化、CO ₂ 低減活動 ・部品メーカー(31社)、施設メーカー(26社)のエネルギー使用量調査と改善事例を横展開して、CO ₂ 削減目標を達成 ・部品メーカーに対しては、他社と協働で仕入先CN活動支援施策を検討、推進中 ・客先生産拠点の移転により輸送・配送時CO ₂ 排出量の削減目標は未達となったが、連結トラックの導入や、長距離輸送の減便を計画通り実施で改善傾向にある
	2. 新車CO ₂ ミニマム化にチャレンジ	お客様の環境価値に貢献する、高付加価値な製品の開発・設計	軽量化による燃費貢献 ・性能の向上、法規制値を遵守しつつ、主要車種の排気管・エキゾーストマニホールドに設定した軽量化目標を達成 ・環境に寄与する新製品の開発目標を達成
事業活動による環境負荷の低減	3. 生産活動の排出物(CO ₂ ・廃棄物)ミニマム化にチャレンジ	自社工場・ライフサイクルCO ₂ 排出量の削減	・省エネアイテムの実施、太陽光発電パネルの増設、CO ₂ フリー電気購入により目標達成 ・原価低減・環境負荷削減(CO ₂ 削減)を目的として新規プロジェクト導入時に生産性向上、設備費低減、材料費低減などを検討し、従来のつくり方に対する削減計画量の目標達成 ・木製廃スキットの有価物化や潤滑液交換周期変更による廃アルカリ低減等、国内の廃棄物削減活動は順調だったが、海外事業体での計画外廃棄物の影響でグローバル目標は未達
	4. 自然共生社会の構築にチャレンジ	人と自然が共生する社会の実現に向けた生物多様性の保全、自然環境の保護活動の推進	CO ₂ 吸収・削減に向けた森づくり ・年間の植樹計画を達成し、累計植樹本数は346,068本となり、CO ₂ 吸収1,550tに貢献 ・国土交通省よりグリーンインフラ大賞 特別優秀賞受賞 ・いなべ工場にビオトープを新たに創出(合計6拠点)
事業活動による環境負荷の低減	5. 環境マネジメントシステムの構築にチャレンジ	連結環境マネジメント体制を構築し、環境リスクを管理し、予防と継続的改善(運営・管理の強化)	環境法令遵守と環境事故の未然防止活動 ・ISO14001認証継続(グループ取得率 93%) ・環境法令遵守状況の定期チェック(2回/年)により是正・再発防止策実施済み
		環境情報の積極的開示によるコミュニケーションの充実	・従業員への環境意識向上活動として環境月間特別行事を実施(1回/年)

次のページで2025年度活動の一部を紹介

環境への取り組み

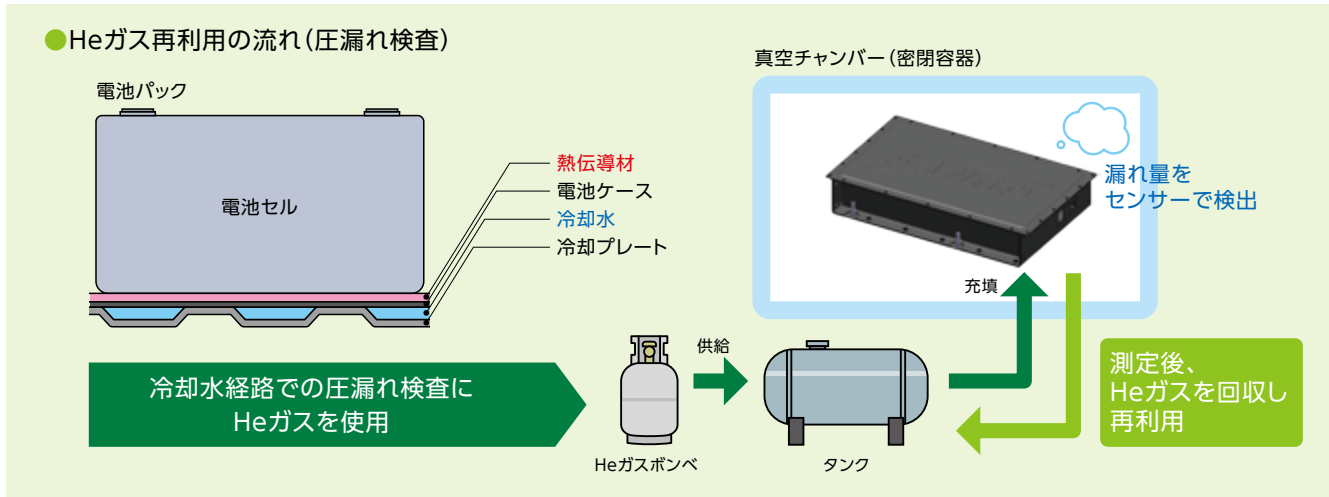
電池関連製品におけるHeガス再利用による資源循環とCO₂削減

当社は、新事業である電池関連事業の第1弾として、2025年3月に電池パック関連部品の生産を開始しました。電池部品内の冷却水経路に対する圧漏れ検査には、高い検出感度が求められるため、微細な孔や傷からの漏れを検知できるヘリウム (He) ガスを用いた検査装置を採用しています。高価なHeガスを再利用する仕組み導入で、原価低減と資源の有効活用を図っています。

Heガス再利用の流れは次の通りです。まずHeガスボンベから供給したガスをタンクを経て製品内部に充填し、真空チャンパー内で漏れ量を測定します。測定後は製品内のガスを回収タンクへ戻し、回収したガスの濃度が所定値を下回らない限り、ボンベからの追加供給を行わずに回収ガスを再利用します。この方法により、約98%のHeガスを再利用でき、Heガスの生産に伴うCO₂排出量を2.4トン削減※しました。

今後も三五グループ全体で、環境負荷の低減と資源循環に向けた取り組みを推進し、持続可能なものづくりに貢献していきます。

※算出は当社独自の調査方法によるもの



再生可能エネルギー導入による“三五環境チャレンジ2050”への前進

当社は「三五グループ環境チャレンジ2050」の目標達成に向け、再生可能エネルギーの導入を加速しています。太陽光パネルは全て建屋の屋根に設置し、既存スペースを有効活用することで安定した発電を実現します。

電力の脱炭素化については段階的に2025年度から一部の電力をCO₂フリー電気に切り替え、2026年度には全工場でCO₂フリー電気を導入します。太陽光発電とCO₂フリー電気の併用により、当社が使用する電力に起因するCO₂排出量を実質ゼロへと近づけ、2050年目標の達成に大きく貢献しています。併せて、省エネ活動も従来通り徹底して続けています。

●三五グループの太陽光発電システムの導入状況

2018年	5月	三福(三五九州)
2019年	10月	STEM(タイ) ウェルグロー工場
2022年	3月	STEM(タイ) バンポー工場
2024年	3月	GSC(広州)
2024年	7月	いなべ工場
2026年	1月	福田工場 第2プレス棟
2026年	5月	とよはし・三好・米野工場

➡ 今後は八和田山工場や福田工場(物流センターなど)、三五関東への導入を進め、2027年度までに拡大を完了する予定です。



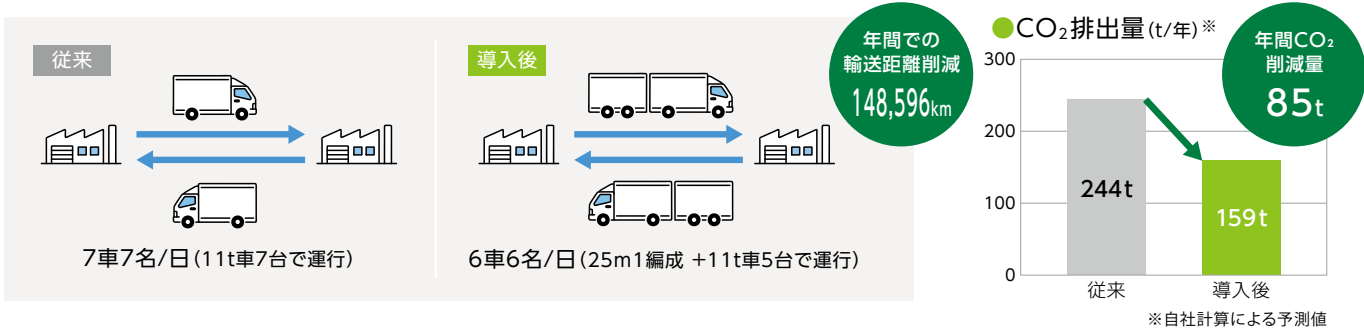
2026年1月、福田工場 第2プレス棟

運送時のCO₂排出量削減

当社は製品のライフサイクルにおける環境負荷削減に取り組んでいます。2025年12月、株式会社ユーネットランスとの協業で、とよはし工場に25mダブル連結トラックを導入しました。1台当たりの積載量増加による輸送効率の向上でCO₂排出量が35%削減され、環境負荷軽減に貢献しています。また、ダブル連結トラックは1台で大型トラック2台分の輸送量をドライバーが1人で対応できるため、輸送回数が減り人手不足も解消できます。



2025年12月、25mダブル連結トラック出発式



物流センターの稼働開始

福田工場では、2025年4月に物流センターをオープンして、製品の自動化倉庫の構築とともに物流効率化を実現しています。これによって年間のCO₂排出量を11t、および、荷役・荷待時間を1,700時間削減することにつながりました。

当社は今後も持続可能な社会を実現するため、運送事業者など取引先と連携して課題解決に取り組んでいきます。

評価される三五の自然共生活動

当社は、グローバルに自然共生活動を展開しています。2006年から継続している森づくりをはじめ、地域に向けたホテル観賞会などの交流イベント開催など、国内外の拠点における、生物多様性に配慮した自然と共生する工場と、地域社会と連携した活動は高く評価され、各種表彰や認定にもつながっています。

国土交通省 第6回グリーンインフラ大賞「特別優秀賞」

愛知県名古屋市のECO35には森やビオトープ、田んぼがあり、これらが防災、減災、気温上昇緩和に寄与するインフラとして機能しています。更には、豊かな自然生態系を活用して地域の子どもたちへの環境教育や、子ども食堂へのお米の寄贈など地域課題解決に貢献していることが高く評価されました。



2026年1月、第6回グリーンインフラ大賞「特別優秀賞」受賞

コジャエリ県庁商工会議所「環境賞」

STI(トルコ)では、環境に優しいマフラーの長年に亘る生産に加え、風土に合った森づくりやビオトープ整備、廃棄物削減活動、雨水利用の改善などの取り組みが評価されました。



2025年6月、コジャエリ県庁商工会議所の環境イベントで環境賞を受賞(STI)

●三五の自然共生活動



三五の森づくり



【公式】三五自然共生活動 Instagram

三五グループのS(社会)は、「お客様の満足度向上」と「地域社会への参画」を土台としています。安全で高品質な製品づくりや社会に貢献する事業を通して、仕入先様やお客様、地域社会から親しまれ、信頼される会社であることを目指すとともに、従業員エンゲージメント向上に努めています。

従業員とともに

三五教育体系

当社は、「ひとづくり」を基本理念の柱の1つに掲げ、社員の能力や役割に合わせた多彩な教育プログラムを提供しています。中計2030に定める全員活躍戦略「社員一人ひとりがイキイキと活躍し、笑顔あふれる元気な会社」の実現のため、自律的(主体的)な学びの機会を設け、社員の成長を支援していきます。

階層	階層別研修(集合研修、リモート研修)		自己啓発	選抜教育	専門教育		
					事務	技術	技能
管理職	・幹部職研修	・基幹職研修		幹部候補 選抜研修			
主任職	・新任主任職研修 ・課題創造型問題解決研修*	・OJT実践研修* ・コミュニケーション研修*		中堅社員 選抜研修		専門教育	職場 実践型 研修
中堅社員	・中堅社員研修 ・発生型問題解決研修(応用)	・リーダーシップ研修 ・TPS研修		海外 トレーニー	基礎教育		専門技能教育
一般社員	・発生型問題解決研修(基礎) ・TPS入門講座	・キャリアプラン研修 ・QC入門講座				基礎教育	
新入社員	・新入社員研修 ・論理的思考・表現基礎研修	・仕事の段取り研修 ・ビジネスマナー研修					

選択型教育

2025年度より一部導入した教育制度として「選択型教育」があります。各自の要望やニーズに応じて自由に選ぶことができ、社員が自発的に学びを深められるような講座を複数提供しています。(対象は上記の表*マークを参照)

コミュニケーション研修

コミュニケーション研修は、日々の部下とのコミュニケーションや、2022年度から実施している“マネトーク(1on1)”を効果的に実施するために必要な知識・スキルの習得を目的としています。2025年度からは選択型教育の1つとして、受講対象を従来の新任G長・係長に加えて、主任職から基幹職までとしました。座学と演習を繰り返すことで、関係構築や従業員の主体性を引き出すコミュニケーションスキルの体得を図り、学びを実践につなげる研修となりました。



コミュニケーション研修の様子

技能伝承の取り組み

当社は、ものづくり企業として高技能者および匠育成に取り組んでいます。高技能講師と若手のペアで高付加価値製品に対応する手付け溶接などの教育を実施し、“タクミライン”導入に向けて、最新鋭のVR機も用いて技能の伝承・継承と従業員の育成環境を整備します。

●高技能者育成の取り組み

- ・社内技能検定、技能五輪“さんごりん”推進、国家技能検定取得を後押し
- ・預かり教育で高技能者育成および匠育成教育を開催、など

多様な働き方をサポート

当社は、従業員一人ひとりが活躍できる、多様で柔軟な働き方を実現する職場づくりを行っています。2025年度は年次有給休暇に関する制度の導入・見直しを実施しました。今後も、従業員一人ひとりが安心して働き続けることができる環境の整備を推進し、働きやすさの向上を目指していきます。

2時間単位年休制度導入

当社は、育児・介護の両立をしている従業員やフレックスタイム制度のない製造現場の働きやすさ向上を目指して、2026年4月より「2時間単位年休制度」を導入しました。短時間の予定にも柔軟に対応できる仕組みづくりを行うことで、多様な人材が活躍できるよう働きやすい環境づくりをサポートします。

●2時間単位年休 取得可能時間(製造現場)

8:30 (20:30)	10:30 (22:30)	12:00-12:45 (0:00-0:45)	15:10 (3:10)	17:10 (5:10)
①		昼休憩		②

*①・②の時間帯であれば昼勤・夜勤いずれも利用可能

このような場面でご利用いただけます!

- ・通院
- ・家族の送迎や学校行事
- ・介護の対応
- ・銀行、役所での手続き



年次有給休暇(年休)一斉付与

従来、年次有給休暇(年休)は入社翌月から1日ずつ付与され、入社半年経過後に残りの日数を付与していましたが、2026年4月より入社月に初年度分の年休を一斉付与できるよう制度の見直しを実施しました。入社直後の体調不良(家族含む)への対応など、従業員が安心して働くことができる環境づくりの実現を目指します。

～3月までの運用

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
付与日数	0	1	1	1	1	1	6	-	-	-	-	-

*中途入社者は入社月によって付与日数が異なります

'26年4月からの付与

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
付与日数	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

●他、働きやすさをサポートする制度

- ・カフェテリアプラン制度(福利厚生メニューをポイントで自由選択できる制度)
- ・育児・介護休業や時短勤務、再雇用制度、年休取得の推進、など

明るく、快適な職場環境を目指して

当社は、従業員が長く・楽しく・健康に働ける職場環境をつくるため、業務効率化の制度や休憩所の整備、相談・協力しやすい雰囲気づくりに取り組んでいます。安全かつ快適で、働きやすく明るく職場環境の整備に継続して取り組み、従業員が互いを尊重し前向きに働けるようにしていきます。

工場内の休憩所整備

従来の休憩所を、より落ち着いて過ごせる雰囲気の休憩スペースに整備し、快適性と使いやすさの向上を図っています。2025年度までに福田工場他、9カ所への導入を実施しました。引き続き従業員が心身をリフレッシュできる環境を整えています。

工場の暑熱対策

暑い時期の体調管理のため、軽装での作業を可能にする職場ユニフォームの制度を見直しました。また、空調ウェアの導入やWBGT(暑さ指数)の活用、大型ファンの設置などで熱中症対策も実施しています。



福田工場 製造現場休憩所



豊田技術センター 休憩所



一部の職場では軽装での作業が可能



三五関東 大型ファン

従業員とともに

安全・安心な職場環境づくり

当社は「安全は何よりも優先すべき大切な価値、全ての活動の基盤」と考え、三五安全衛生基本方針を定めています。「災害ゼロの実現」「交通災害の撲滅」「従業員全員の健康づくり」「防火・防爆の推進」を行動指針として、安全・安心な職場環境づくりに取り組んでいます。

社内事例を用いたVR安全教育

災害を風化させてはいけないという思いから、2025年度は、過去に社内で発生した重大災害の4つの事例を基に安全教育を行いました。怖さが伝わる、危険と判断できる、自分のこととして受け止めるため、新たなVR機器を使用して行ったこの教育は、班長・工長を対象に406名へ実施しました。「災害ゼロ」を目指して、今後は全従業員を対象に安全教育を開催し、安全活動を推進していきます。

●2025年度受講実績

班長・工長 **406人**

●VR機器の4事例

- ①挟まれによる重大災害
- ②重量物による重大災害
- ③フォークリフト接触による休業災害
- ④転倒による休業災害



安全教育の様子

健康経営の推進と多様性を尊重した職場づくり

従業員が健康でイキイキと働ける環境の実現を目指して、2020年から当社は「健康な心と身体はすべての原点」という三五健康経営宣言の下、健康経営活動に取り組んでいます。これらの取り組みが評価され、当社は健康経営優良法人2026の認定を取得しています。

2025年度は、多様性を理解し互いに認め合い支え合う風土の醸成を目的に「生理痛体験」を社長以下役員を対象に実施して、女性特有の健康課題への理解促進を図りました。

また、58～64歳の全従業員を対象にシニア向けの体力測定および運動セミナーを開催し、イキイキと働き続けるための体力づくりのきっかけを提供しました。この活動は、厚生労働省主導の「SAFEコンソーシアム2025」製造業エイジフレンドリー部門の最上位となるゴールド賞の受賞につながりました。

健康相談室の数 **6カ所** 相談員数 **11名** （内、産業カウンセラー **3名**）



2026年2月、SAFEコンソーシアム AWARDS 2025表彰式

三五グループにおける品質向上に向けた取り組み

当社は品質向上に向けた取り組みを継続推進しています。製品品質に直結する取り組みはもちろん、従業員間の信頼関係と開かれた社風を育む活動を通して、イノベーションの創出や人材定着を図り、業務品質改善を目指します。

2025年度に3回目を迎えた「QCサークルグローバル大会」は、継続的な改善文化の定着と三五グループ全体の競争力強化を目的に開催しています。国内外の拠点が問題解決の知見を相互に共有するこの大会は、品質の安定化や業務効率の向上につながります。また、成果発表や情報共有を通じて、従業員間の交流と異文化理解の場を積極的に設けることで、モチベーション向上と職場の活性化を図っています。

今後も品質向上に向け、グローバルな協働姿勢の理解につながる取り組みを行い、グループ全体で進化していきます。



2025年5月、QCサークルグローバル大会

仕入先様・お客様とともに

サプライチェーン

当社はサプライヤーとの共存・共栄の考えの下、「調達の基本方針」や「仕入先サステナビリティガイドライン」などを定め、サプライヤーの皆様とパートナーシップを深めながら、持続的な成長を共に目指しています。

●調達の基本方針

- 01.オープンで公平・公正な取引
- 02.相互信頼に基づく相互発展
- 03.グリーン調達の推進
- 04.災害リスクマネジメントの徹底
- 05.法令遵守と機密保持の徹底



調達の基本方針

サプライチェーン全体でのサスティナビリティへの取り組み

サプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の実現を目指した事業活動を推進するため、「三五グループ仕入先サステナビリティガイドライン」を策定しました。同ガイドラインは人権、労働、環境、コンプライアンスなどの項目に関する方針を定めており、サプライヤーには長時間労働などの社会面に加え、水使用や生物多様性などの環境面への配慮と法令遵守をお願いしています。また、紛争鉱物については、責任のある資源・原料調達を要請するとともに全てのサプライヤーの協力の下、紛争鉱物に関する調査を実施しています。



仕入先サステナビリティガイドライン

「三五グループグリーン調達ガイドライン」の推進

環境問題の深刻化は企業にとって新たなリスクとなります。環境の長期ビジョン「三五環境チャレンジ2050」に基づいた三五グループグリーン調達ガイドラインの推進で、環境と調和を図りながら、サプライヤーと持続的な成長を目指しています。



三五グリーン調達ガイドライン

サプライヤーとのパートナーシップ強化

当社の事業はサプライヤーとの強固な連携の下に成り立っており、サプライチェーン全体でのパートナーシップ強化、そして持続的な成長を目指しています。

毎年3月に開催する仕入先総会では、サプライヤーの皆様へグローバル会社方針や調達年度方針を説明するとともに、安全・法令遵守(取適法対応)・環境(CE、CN、NP)・品質・コスト競争力強化、供給リスクについての課題や目標を共有しています。また、品質改善活動やカーボンニュートラル活動に成果が表れたサプライヤーに対して年度表彰を行っています。

昨今、世界では地政学的リスクの高まり、日本国内では物価高騰に対応するための価格転嫁や賃金アップを実現するための取引価格の見直しが社会課題となっています。こうした状況の中、サプライヤーとのパートナーシップ構築宣言の下、当社はサプライチェーン全体の付加価値の向上、適正取引活動を推進しています。



サプライヤーの困りごとに対して、いつでも相談を受ける体制づくりを行っています

2025年度の主な客先表彰実績

三五

- 日産自動車 ・優良品質感謝状
- マツダ ・カーボンニュートラル改善賞
・カーボンニュートラル目標達成賞
- 日野自動車 ・補給部品協力 貢献賞

GSC (広州)

- 广汽豊田汽车有限公司 ・原価優秀賞
・品質協力賞
- 東風日産乘用车公司 ・量産品質賞

TSC (天津)

- 一汽豊田汽车有限公司 ・品質優良賞

STI (トルコ)

- Toyota Motor Europe ・新規プロジェクト管理部門 優秀賞

STEM (タイ)

- TOYOTA CO-OPERATION CLUB ・TCC品質改善優秀賞
・TCCリスクマネジメント活動
サイバーセキュリティ対策BCP グレードA
・TCCリスクマネジメント活動
洪水対策BCP 第9位
- Toyota Parts Center Asia Pacific ・サービスパーツ品質保証優秀賞
- Toyota Motor Asia ・部品仕入先部門 品質最優秀賞

地域社会とともに

三五の社会貢献活動

当社は「環境づくり」「社会福祉」「地域防犯」「災害復旧」の4つを重点分野として社会貢献活動を推進しています。

国内では特定外来生物の駆除活動や地域のスポーツプログラム指導などを行っています。また、海外では子ども支援や寄付、各種イベントの開催など現地に寄り添った社会貢献を行っています。従業員と地域が連携して活動することで、地域活性化に取り組むとともに地域の方々との信頼関係を深めていきます。

●2025年度の主な取り組み

2025年 4月	小学生の田植え体験を実施(ECO35)
2025年 5月	特定外来生物オオキンケイギク駆除活動を実施(八和田山工場)
2025年 6月	外来種コシノロセンダングサ駆除活動を実施(GSC/広州)
2025年 6月	デニズリ池周辺の清掃活動を実施(STI/トルコ)
2025年 6月	小学校の改装活動、寄付(STEM/タイ)
2025年6～9月	“みよし市放課後こども教室スポーツプログラム”でバスケットボール教室を開催(三五バスケットボール部)
2025年 7月	熱田区夏休み親子講座 “熱田の森 田んぼで生き物を探そう2025”を開催(ECO35)
2025年 10月	特定外来生物アルゼンチンアリの防除を実施(とよはし工場)
2025年 10月	小学生の稲刈り体験と、お米の寄付を実施(ECO35)
2025年 11月	“MIYOSHI ヒト・コト発掘体験会”の受入協力(ECO35)



2025年6月、STEMバンポー工場近くの小学校での活動(STEM)



2025年6月、外来生物種駆除活動(GSC)



2025年10月、特定外来生物アルゼンチンアリの防除を実施(とよはし工場)

三五SDGsの取り組み

当社は2022年に「三五SDGs取り組み方針」を発表しました。現在、三五は17の目標全てにおいて課題解決に向けて取り組み、SDGs個人の行動宣言として従業員が宣言した目標を掲示し、自分事として意識的に行動することを推進しています。また、国内の拠点・工場がある全ての自治体でSDGs認証制度に登録し、地域と連携しながら、一人ひとりの行動が大きな力になっていくと考え、地球と未来のために引き続き行動していきます。



三五のSDGs



●SDGs個人の行動宣言参加人数

58部署 3,798人*が宣言

※集計対象：三五+国内事業体

●「SDGs行動宣言シート」の宣言率が高かったSDGs目標



人権尊重に関する取り組み

近年、企業の人権課題への取り組みの重要性が拡大する中、当社でも社会の一員である企業として、全ての活動において人権尊重の重要性を認識し、人権に関する基本姿勢を「三五グループ人権方針」として明文化しました。今後も当社の事業にかかわる国と地域で、人権を尊重する経営を推進し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



三五グループ人権方針

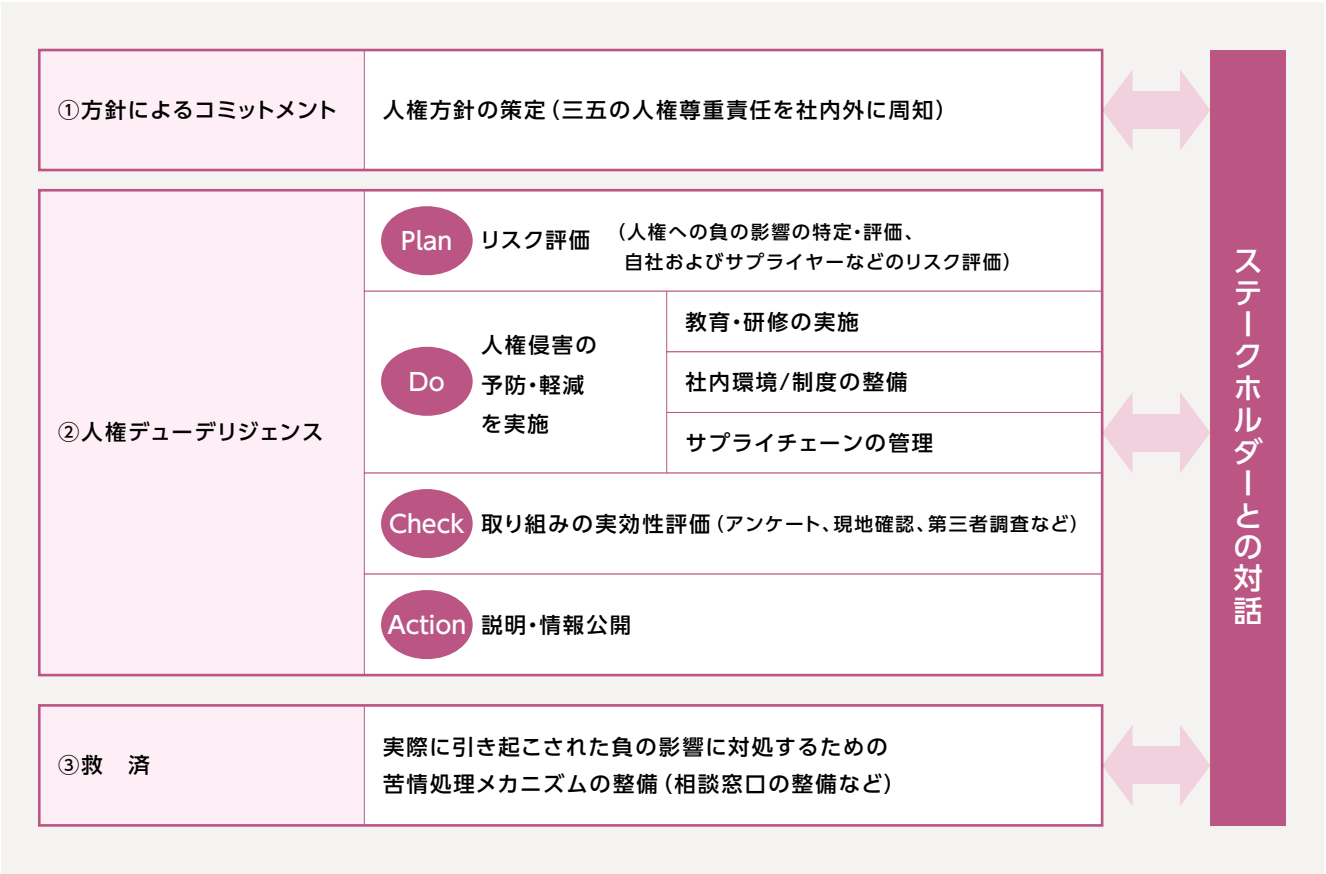
●人権方針の重点テーマ



【出典元】投影資料:「ビジネスと人権」に関する企業研修(法務省)

三五グループにおける人権対応の全体像

PDCAサイクルを回すことで、人権デューデリジェンスを継続して実施し、人権リスクに対処していきます。



●人権デューデリジェンスの仕組み構築

人権方針に基づき、人権デューデリジェンスの仕組みを構築し、事業活動における人権への負の影響を特定し、その未然防止と軽減を図るよう努めています。

●教育・研修の実施

月度朝礼や社内報による啓発活動やE-learningの実施を通して、グループ全体で人権尊重の企業風土づくりに向けた教育・研修を実施し、人権尊重の意識浸透を図っています。

ガバナンス・コンプライアンス

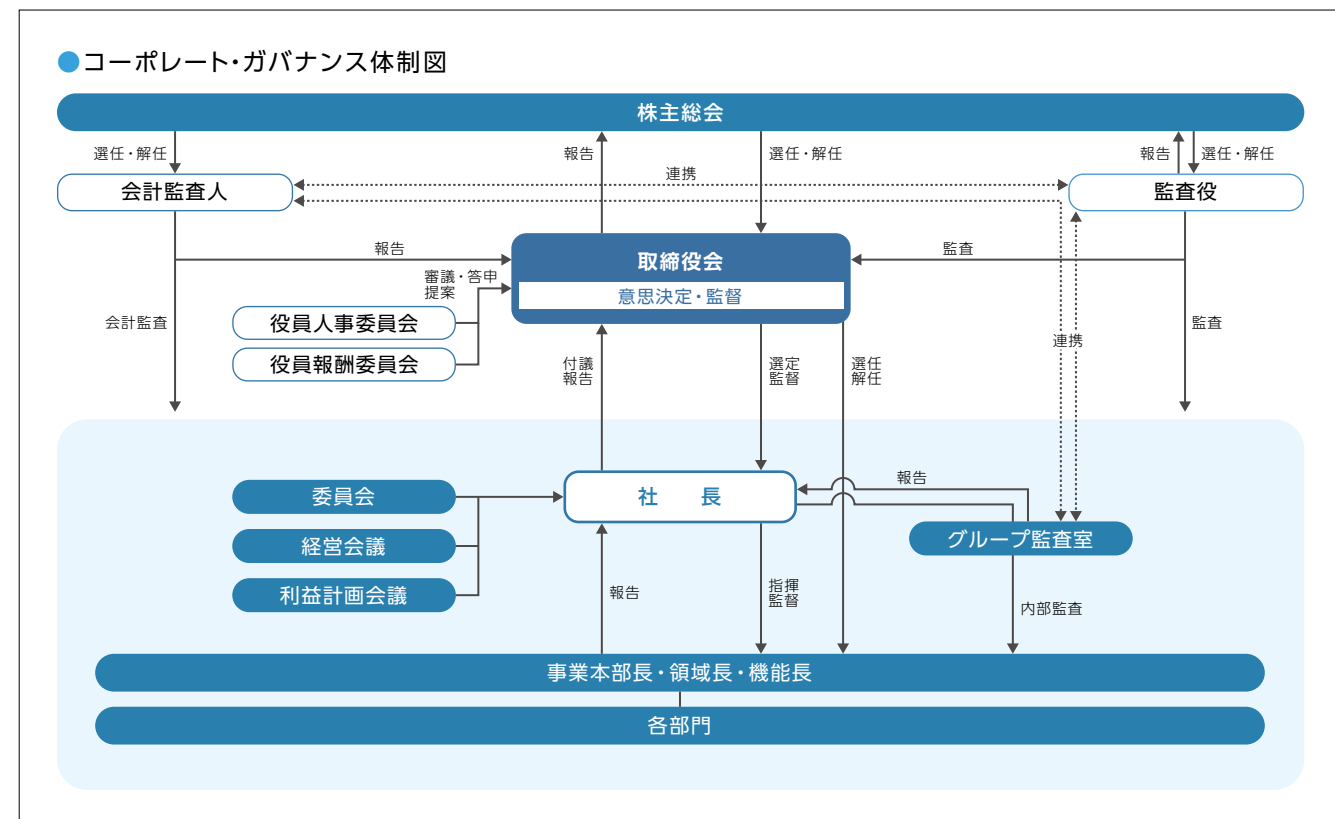
コーポレート・ガバナンス体制

当社は、会社経営において公正な判断や運営がなされるように監視・統制する仕組みを設けたガバナンスの強化に取り組んでいます。不祥事発生、企業の持続的成長力や中長期的な企業価値向上力の低下を防ぎ、企業の信頼性向上に努めています。

従業員を始め、株主・お客様・仕入先様・地域社会などさまざまなステークホルダーを意識した、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定ができるよう、下図のとおりコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。



三五の
ガバナンス体制



最高経営意思決定機関である取締役会の構成は社外取締役2名を含む6名※1とし、法令に定められた事項や経営にかかわる重要事項の決定、取締役の監督機関として位置づけています。一方で公正・独立の立場から社外監査役を含めた、監査役が取締役の職務執行、経営の監査を行う体制を構築しています。

役員一覧※1

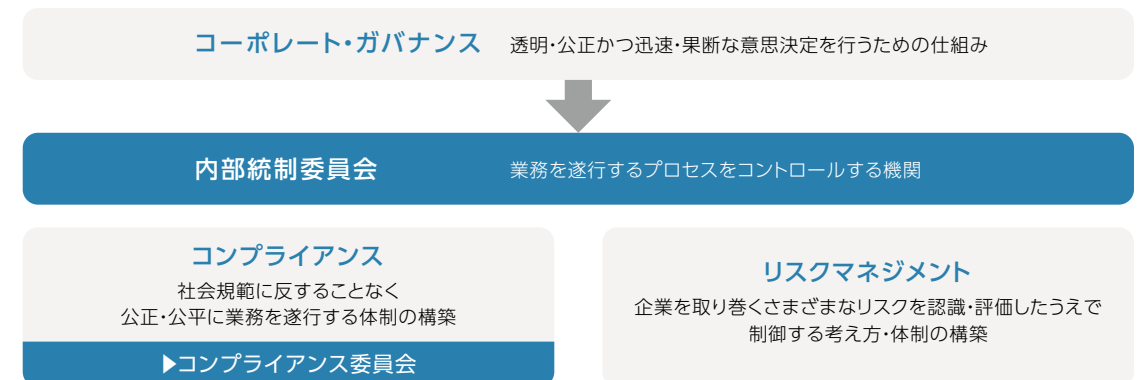
代表取締役会長	恒川 敬史			
代表取締役社長	水野 昭智			
取締役	渡部 哲也	都筑 秀勝	木野 綾子 ※2	高原 一郎 ※2
監査役	児玉 賢隆	谷口 勝司 ※3	岩田 和之 ※3	

※1 2026年6月29日現在 ※2 社外取締役 ※3 社外監査役

内部統制委員会

当社はコーポレート・ガバナンス体制に従い、内部統制システムを構築し、業務適正を確保するための社内体制を整えています。また、コンプライアンスやリスクマネジメントの取り組みを積極的に推進しています。

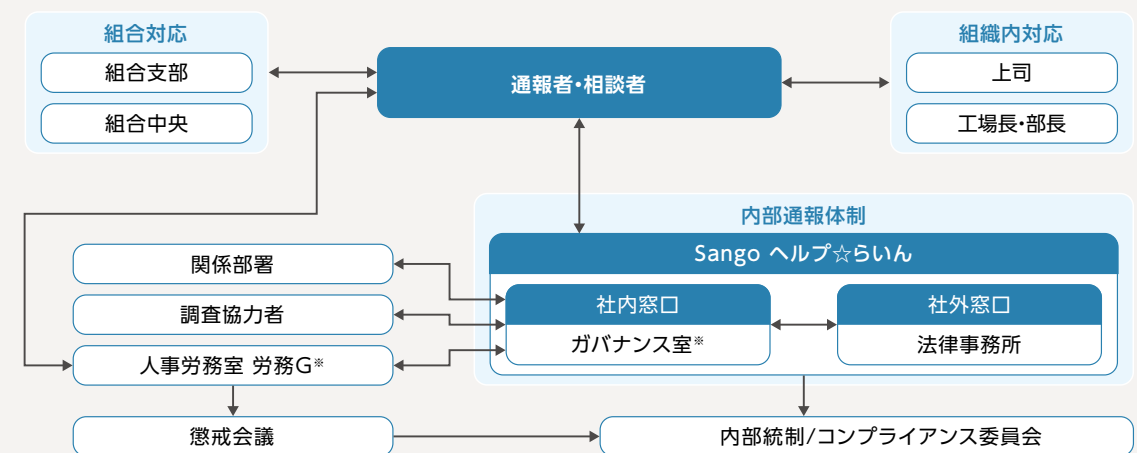
●内部統制委員会の役割と体制図



内部通報制度

不正行為の未然防止、早期発見および是正を図り、コンプライアンス体制を強化することを目的として、内部通報相談窓口（Sango ヘルプ☆らいん）を設置しています。また、国内事業体各社とも連携して対応できる体制を構築・運営しています。

●内部通報相談窓口（Sango ヘルプ☆らいん）相談フロー



*ガバナンス室は法令違反、労務Gはハラスメント・労務問題等の事実調査を行う

コンプライアンスの取り組み

当社はグローバル方針に「元気な職場づくりとコンプライアンス意識の向上」を掲げ、年間を通じてコンプライアンス強化活動に取り組んでいます。

2025年度は、前年度のコンプライアンス意識調査の結果を踏まえ、各部署で独自の啓発活動を実施しました。また、部長職向けに研修を行い、自己評価と他己評価を分析して自身の考え方や特徴を知ってもらうなど、ハラスメント防止の理解を深めました。10月の推進月間では身近なコンプライアンス問題をクイズとして出題し、新たな取り組みとしてよりコンプライアンスを身近に感じてもらうため推進キャラクターである「こんぱライオン」を活用したグッズ配布などを行いました。

今後も全従業員が興味を持って主体的に取り組めるコンプライアンス啓発活動を企画・実施し、従業員一人ひとりの更なるコンプライアンス意識向上を図っていきます。



リスクマネジメント

事業継続計画(BCP)基本方針 中期危機管理計画の推進

当社では、BCPの基本方針に基づき、万一有事が起きた際でも早期に事業継続・再開ができるよう課題解決に向けて取り組んでいます。2025年度は「中期危機管理計画」初年度として活動を推進してきました。今後も教育・訓練を通して、いざという時に自身の安全を確保しつつ臨機応変に行動できる人材を育成していきます。

●中期危機管理計画(ロードマップ) 2027年度に向け、3本の柱を「仕組みづくり」と「人材育成」の両面で実現

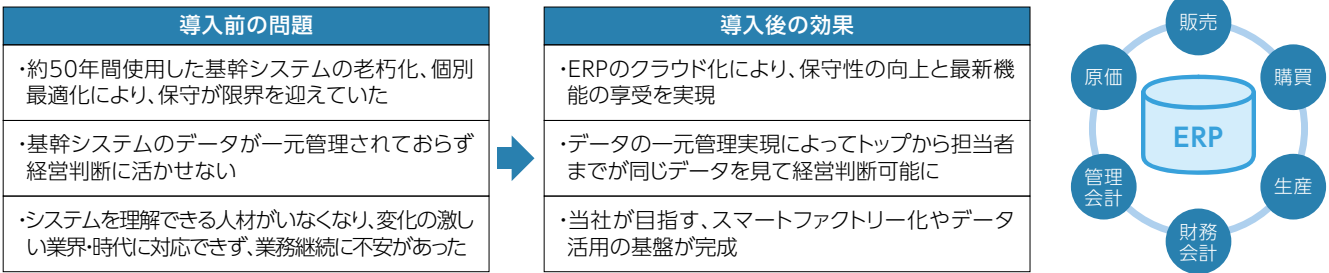
中期危機管理計画 3本の柱	2027年度の到達目標
1. 従業員とその家族・来訪者の命を守る活動	・自衛消防隊の組織体制の見直し、災害対応マニュアルや通信機器手順書を整備 1. 緊急応急手当の基礎知識をより多くの従業員が習得 ・仕組みの定着/運用と自発的に行動できる人材を増やしていく
2. 着実な事業継続を目指して	・各部署の重要業務の洗い出しと想定内・想定外(最悪ケース)への対応検討、フロー作成 2. 災害対策本部、全社統一避難訓練など、繰り返し訓練を実施
3. 三五グループの体質強化	・各事業体における危機管理体制づくりとリスクの洗い出し 3. 三五、三五グループ、サプライヤーと情報共有できる仕組みづくりと合同訓練を実施

●2025年度 各種訓練実績
緊急救急対応訓練：2回/年実施
ERTトレーニング：3回/年実施
通信訓練：三五全工場(8拠点)で実施
安否確認訓練(SECOM)：3回/年実施
全社一斉避難訓練：1回/年
他、毎年実施の定例訓練

ERPシステム導入による競争力強化

当社は販売、購買、生産、財務・管理会計原価などの基幹業務を統合し、データの可視化、一元管理、業務の標準化を図るため、2022年7月よりERPシステムの導入プロジェクトに取り組み、2025年1月より運用を開始しました。

本システムの導入により、業務プロセスの標準化や情報の一元管理が進み、更なる業務効率化と迅速な意思決定が期待されています。これから現場の声を取り入れながら、より使いやすい環境づくりを進めていき、企業価値の向上、競争力の強化に取り組み、更なる発展への貢献を目指します。



情報セキュリティ強化への取り組み

年々増加しているサイバー攻撃への対策として、当社では日本自動車工業会と日本自動車部品工業会が作成したセキュリティガイドラインを基に、積極的な情報セキュリティの強化に取り組んでいます。2025年度は、前年度に引き続き、サプライヤー32社にガイドラインの自己評価や各社への訪問を実施しました。各社の自己評価の達成率は2024年度に比べて平均13%アップしました。今後もサプライチェーン全体でセキュリティ対策のレベルアップに努めていきます。



- セキュリティ部門を新設
2026年1月、下記3点の強化に向けてデジタル推進部内に「セキュリティG」を新設しました
①三五グループ全体の情報セキュリティ対策強化 ②サイバーセキュリティ防御力とBCPを含めたレジリエンスの強化 ③サプライチェーンの情報セキュリティ対策レベルの底上げ
- 情報セキュリティ教育&標的型攻撃メール訓練システム
①情報セキュリティ教育(e-ラーニング&啓蒙)を毎月実施 ②標的型攻撃メール訓練を年4回以上実施 ③不審メール受信者が安全に報告できる仕組み構築



会社情報

三五グループは創業より自動車産業の発展とともに、金属製品事業でグローバルに成長を続けてきました。今では多くの取引先の皆様、お客様に支えられ、世界8カ国15拠点、国内16拠点で事業展開しています。Pure AIR & More. 持続可能な社会の実現のために、「環境の三五」「人を大切にする企業グループ」を目指します。

製品紹介

三五の製品情報



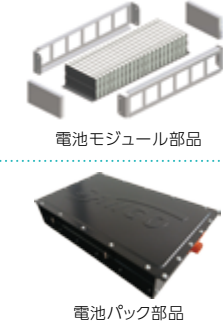
ボディ・シャシー製品



駆動系製品



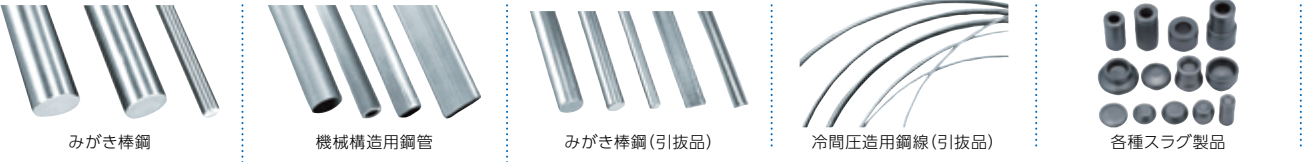
電池関連製品



排気システム



精鋼製品



非自動車製品

自動車分野で培ったものづくりの技術を活かし、自動車分野外での事業としての製品提供を進めています。



会社概要

概要

商 号	株式会社 三五
代 表 者	代表取締役社長 水野 昭智
本 社	愛知県みよし市 福田町宮下1番地1
創 業	1928(昭和3)年 6月1日
会社設立	1950(昭和25)年6月1日
資 本 金	1億円
売 上 高 ^{※1}	連結/6,406億円 単独/3,264億円
従業員数 ^{※2}	連結/8,527人 単独/2,957人
主な認証	ISO14001:2015 ISO 9001:2015

※1 2026年3月末 受給品込み

※2 2026年3月末 非正規社員(期間従業員など)を含む

主要製品

- ・マフラー
- ・エキゾーストパイプ
- ・エキゾーストマニホールド
- ・ボディ部品
- ・ドアインパクトビーム
- ・電池関連製品
- ・その他自動車部品
- ・冷間鍛造部品
- ・みがき棒鋼
- ・引抜鋼管
- ・機械構造用炭素鋼管
- ・切削／研削みがき棒鋼
- ・建築設備配管

主な取引銀行

三菱UFJ銀行

三井住友銀行

みずほ銀行

名古屋銀行

主な取引先(順不同)

トヨタ自動車株式会社

日野自動車株式会社

ダイハツ工業株式会社

日産自動車株式会社

三菱自動車工業株式会社

いすゞ自動車株式会社

株式会社SUBARU

マツダ株式会社

株式会社豊田自動織機

トヨタ自動車東日本株式会社

トヨタ車体株式会社

株式会社トヨタカスタマイジング&ディベロップメント

株式会社アイシン

株式会社ジェイテクト

KYB株式会社

豊田通商株式会社

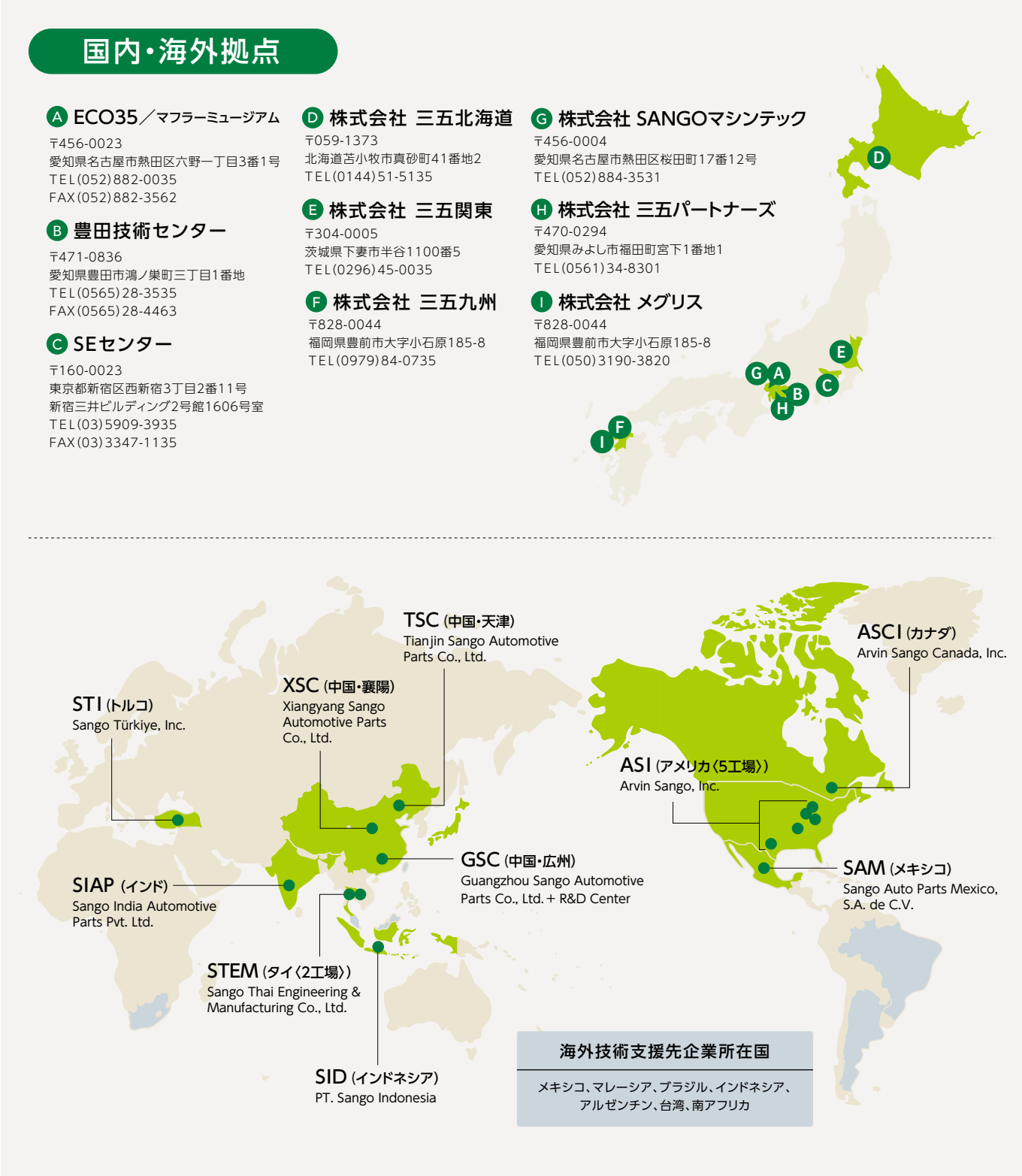
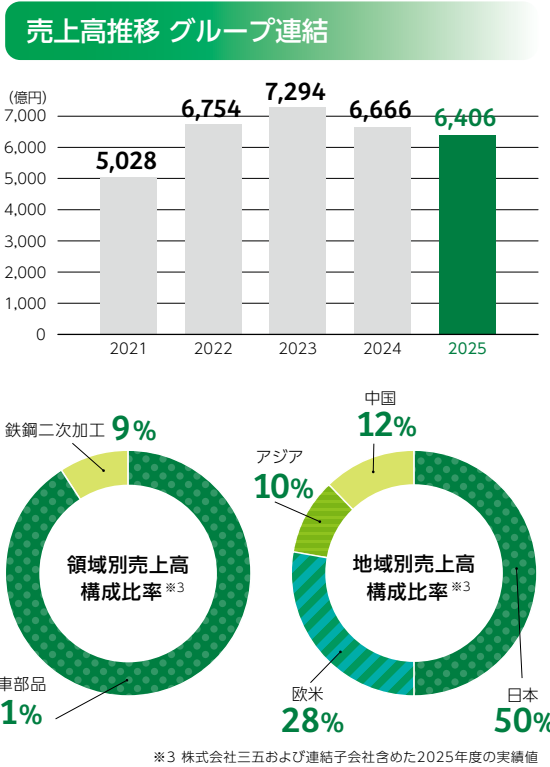
住友商事株式会社

浅井産業株式会社

株式会社メタルワン

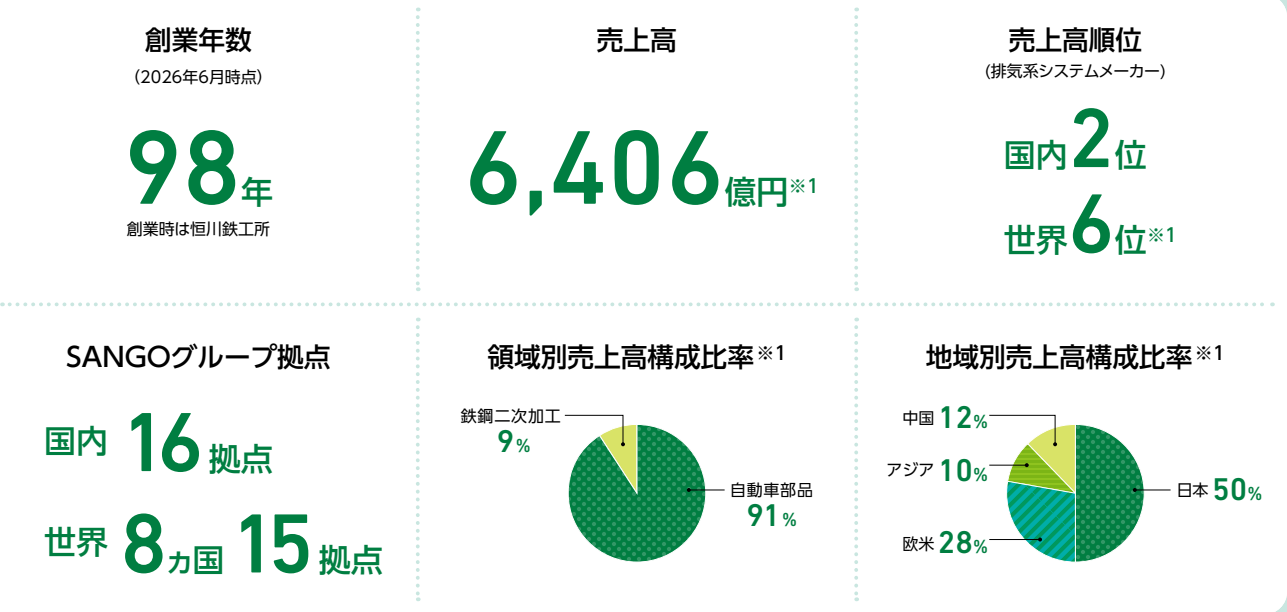
株式会社カノークス

沿 革	
1928年 6月	恒川鉄工所を創業、プレス加工を開始
1934年 9月	株式会社豊田自動織機製作所と取引開始
1937年 8月	トヨタ自動車工業株式会社と取引開始
1950年 6月	株式会社三五を設立
1950年 9月	高蔵工場(現・ECO35 旧名古屋工場)を新設
1954年 3月	排気系(マフラー、エキゾースト)の製造開始
1962年 5月	名古屋工場にマフラー、エキゾーストパイプの研究室を設置
1967年 8月	三好工場(磨棒鋼の専門工場)を新設
1973年 11月	豊田工場にマフラー、エキゾーストパイプの技術・研究棟完成
1976年 5月	トヨタ生産方式を導入
1987年 1月	米国に合弁会社「Arvin Sango, Inc.」を設立(初の海外進出)
1994年 8月	八和田山工場に「技術本館」完成
2008年 11月	ECO35にマフラーミュージアム完成
2015年 6月	豊田技術センター(旧豊田工場)に「第2技術館」完成
2016年 5月	中国に「三五広州R&Dセンター」完成
2023年 5月	福田工場に「新プレス棟」完成
2024年 10月	株式会社メグリスを設立
2025年 4月	福田工場に物流センターを完成

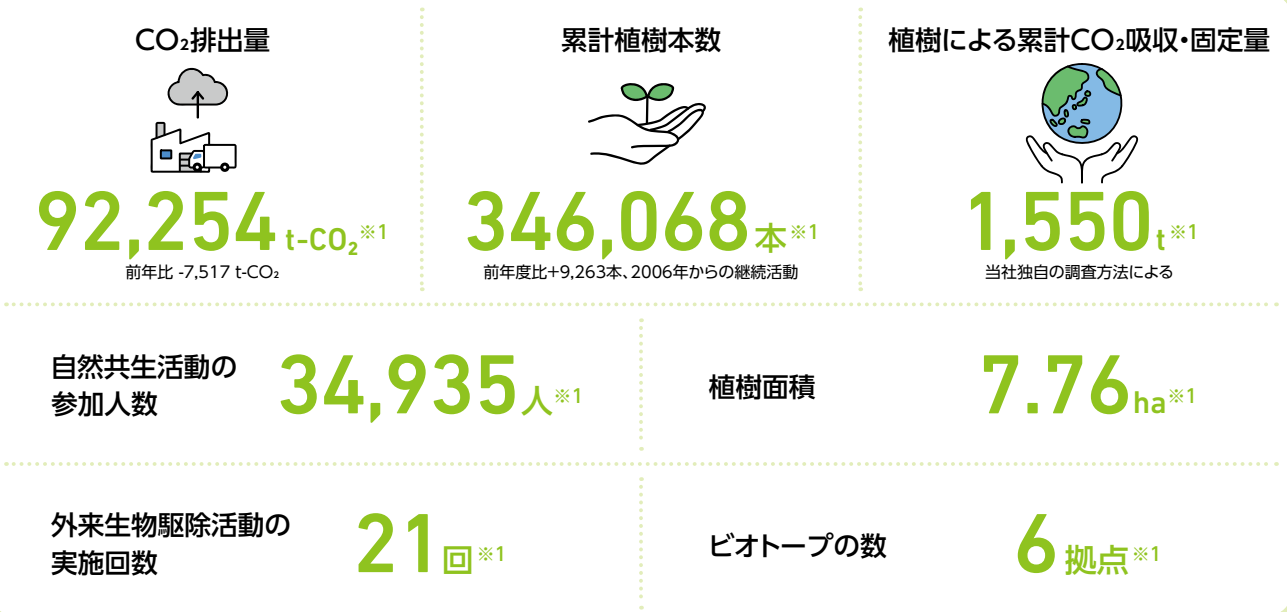


工場		中部地方に7工場
本社／福田工場	〒470-0294 愛知県みよし市福田町宮下1番地1 TEL(0561)34-0035 FAX(0561)34-1240	
三好工場	〒470-0224 愛知県みよし市三好町井ノ口47番地 TEL(0561)32-3511 FAX(0561)34-0157	
とよはし工場	〒441-8074 愛知県豊橋市明海町三丁目33番地 TEL(0532)23-3515 FAX(0532)23-3519	
八和田山工場／R&Dセンター	〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山5番地35 TEL(0561)32-3501 FAX(0561)32-0235	
三好第3工場	〒470-0224 愛知県みよし市三好町池守田63番地 TEL(0561)33-3595 FAX(0561)33-3594	
いなべ工場	〒511-0508 三重県いなべ市藤原町藤ヶ丘1番地1 TEL(0594)46-5135 FAX(0594)46-3560	
米野工場	〒511-0502 三重県いなべ市藤原町上相場2438-1 TEL(0594)46-8635 FAX(0594)46-8636	

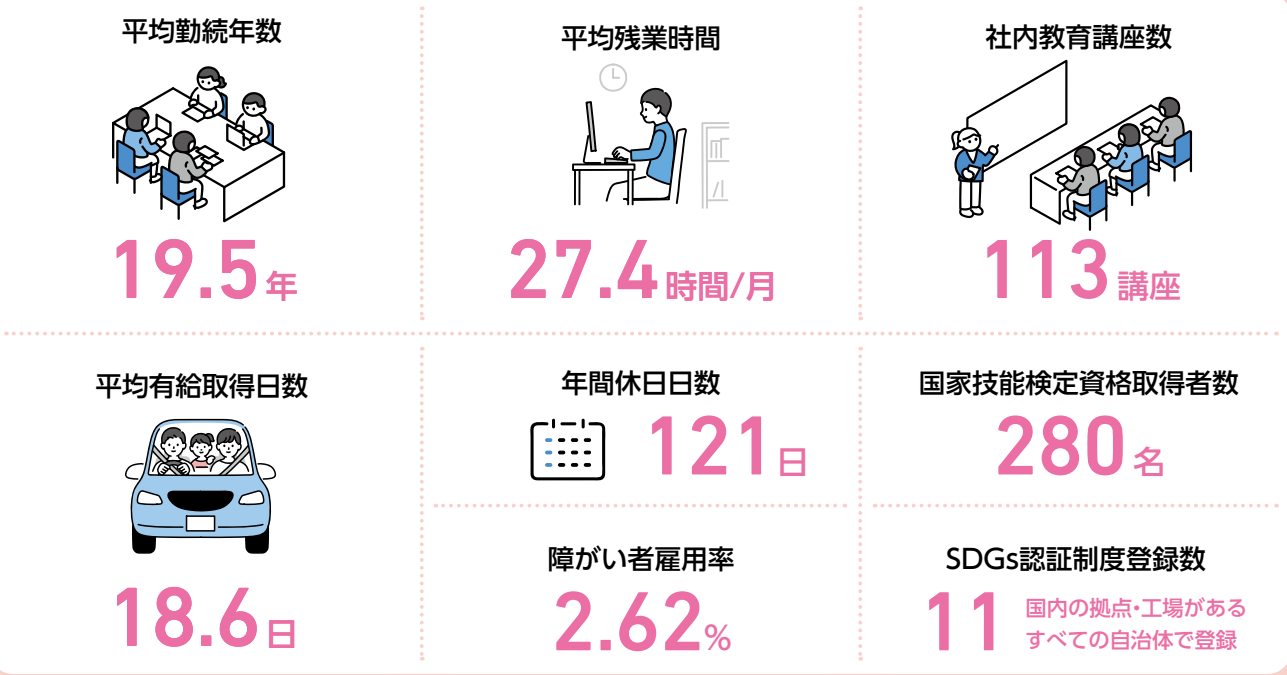
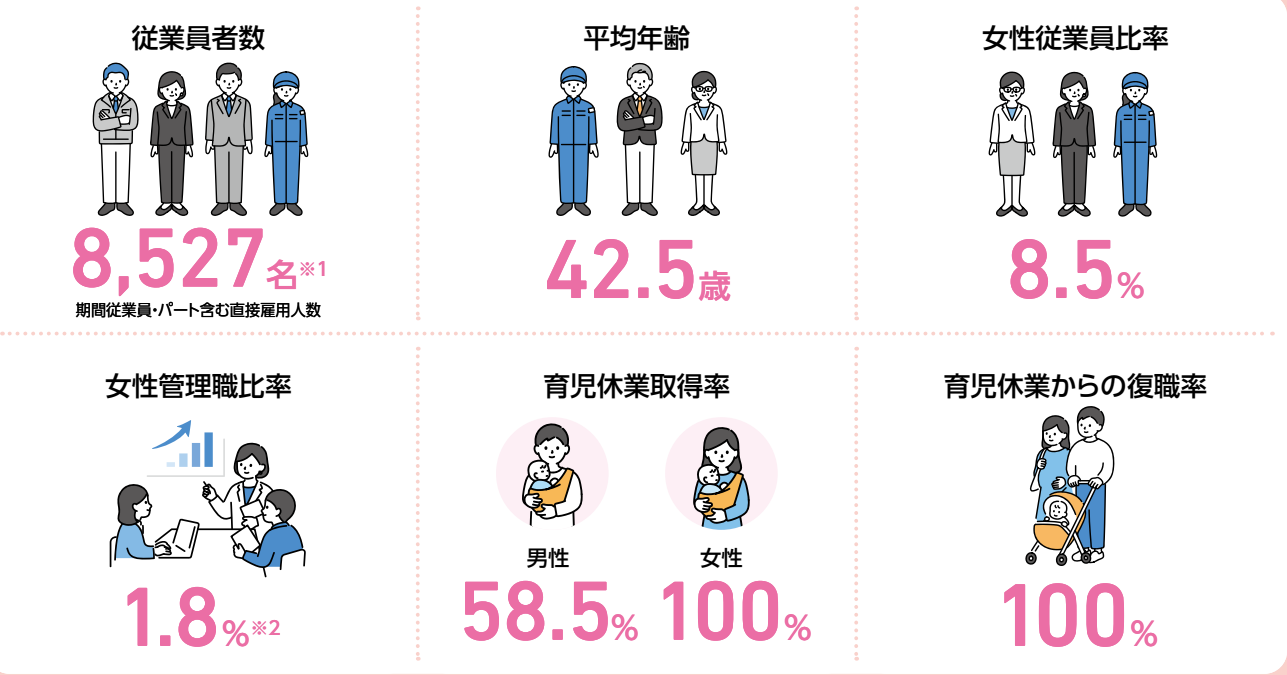
会社概要



環境



社会



ガバナンス



※1 三五グループ全体の実績値(印ない箇所は三五単体の値) ※2 女性管理職数 ÷ 管理職数 × 100(%)、管理職=基幹職以上 ※3 2026年6月29日現在

※4 法令遵守や多様性、人権問題(ハラスメント・差別など)、倫理についての研修